

2. 第二若葉保育園(岩手県 花巻市)

I 実施結果の概要

1. 事業の目的

園児以外の一般家庭の子育て支援として実施している一時保育の実績を分析し、家庭のニーズの動向を調査するとともに、各種の子育て支援活動を実施し、有効な支援の在り方を研究することによって、今後の子育て支援に資することを目的とする。

2. 事業の実施結果

- (1) 一時保育利用者 50 名に対するアンケート調査を実施した。回収率 56%、利用のきっかけや利用しなければならなかった理由、利用後の感想や要望等を知る事が出来た。
- (2) 保育園の行事に一時保育の親子や地域の親子を招待し、同年齢の親子が出会う場の提供と生活経験の拡大を図り、育児の楽しさを実感して頂く機会の提供を図った。
- (3) 一時保育を利用しやすくするための情報を盛り込んだパンフレットを作成した。
- (4) 園の育児講座への参加を呼びかけ、育児知識の拡充を図った。「救急救命・心肺蘇生訓練」

3. おもな会議等開催月日・場所

実施年月日	会議名及び事業名	会場	実施結果の概要
12年 7月19日	・ 調査研究企画会議 ・ 一時保育利用家庭へのアンケート項目検討会議	第二若葉 保育園	有意義な調査研究事業を展開するための内容検討と日程計画を作成する。かねてからの計画であった一時保育のアンケート調査の具体化に向けて話し合った。
7月21日	・ 園行事「夕涼み会」について	〃	一時保育利用家庭や地域の在宅保育児及び卒園児を招いての行事の運営について、父母の役員会で話し合いをした。
8月5日	・ 「夕涼み会」開催	〃	20組近くの在宅保育の親子が「夕涼み会」に参加し、金魚すくいや綿飴、夜店でのゲームや買い物ごっこを楽しんだ。
8月23日	・ 一時保育パンフレット作成会議	〃	一時保育の広報を兼ねたパンフレットの内容について検討、園や市の窓口に置けるようなカラフルでわかりやすい、内容の充実したものを企画した。
9月12日	・ 園行事「親子運動会」について	〃	一時保育利用家庭の親子を招いての「親子運動会」の運営について、父母の役員会の場で話し合いをした。

9月30日	・「親子運動会」開催	花巻市勤 労青少年 ホーム	一時保育の子も定期的に利用している子は園児と同じくリズム体操や一般競技に参加し楽しむことが出来た。園児と同等にメダルや商品をあげたので、とても喜んでいました。
10月13日	・一時保育利用家庭へのアンケート調査開始	第二若葉 保育園	平成11年度の一時保育利用家庭に対するアンケート調査用紙送付作業を行う。50通、返信用の封筒を同封して発送した。
11月14日	・「焼きいも会」開催	〃	一時保育の子も交えて、焼きいも会を楽しんだ。
11月18日	・育児講座 「救急救命・心肺蘇生訓練」実施	〃	嘱託医の高橋肇先生に講義をして頂き、花巻消防署より救急救命士を招き実地訓練を行う。70名の参加なので、規定に従って7名の指導員さんがおいでになり、参加者全員がしっかりと訓練を体験した。
11月30日	・アンケート集計分析作業	〃	50通送付の内28通の回答があった。回収率56%である。詳細については次頁で報告する。
12月22日	・調査研究のまとめ	〃	報告書、諸書類の点検整備を行う。

II 事業の実施状況

第二若葉保育園は昭和48年の開設ですが、平成7年度の園舎全面改築の際に多様な保育ニーズに対応出来る広さと設備、職員体制を整備しました。今回の調査研究においてはその中の「一時保育」の利用者の反応を確認しながら、より利用しやすい体制を整えて、地域の子育て支援活動を実施することとしました。

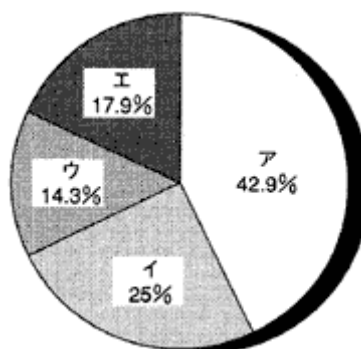
1. 一時保育利用者へのアンケート調査について

平成11年度の一時保育利用者は非定型で32名、緊急一時で34名ありました。その中から利用延べ日数の多かった50名を選択し、リストを作成してご協力頂くことにしました。アンケートの項目については調査委員会で十分に協議を重ね、端的に答えられる量と内容にしました。

調査の結果は次のとおりでした。

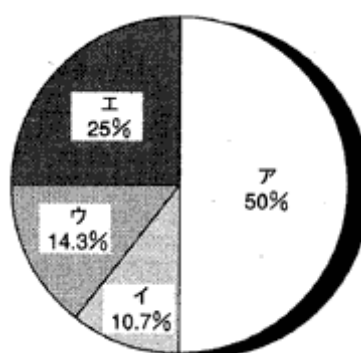
1. 一時保育の存在を何でお知りになりましたか。

- ア. 広報、子育て支援のちらし等
- イ. 福祉事務所
- ウ. 利用したことのある知人から聞いた
- エ. その他(保育園関係者から聞いた)



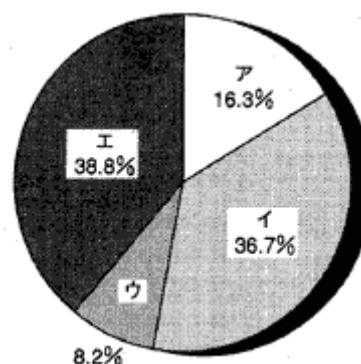
2. 預ける時の保育環境

- ア. 両親が働いていて祖父母が子どもを世話していた
- イ. 母が保育していた(産休中)
- ウ. 母が保育していた(育児休業中)
- エ. 母が保育していた(仕事はしていない)



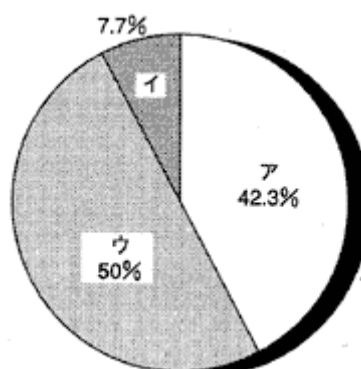
3. 預ける時の気持ち(複数回答可)

- ア. 心配だけど誰も見てくれる人がいないから仕方がない
- イ. プロが見てくれるから大丈夫
- ウ. 先生は優しいだろうか
- エ. 友達とうまく遊べるだろうか



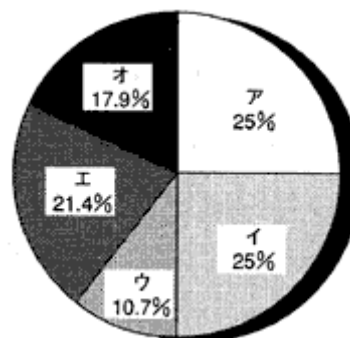
4. 初めて第二若葉に来た時の印象はいかがでしたか(記述)

- ア. 先生方が
優しそう、親切、明るい、暖かい
- イ. 子どもたちが
伸び伸び生き生きしていた
- ウ. 建物が
清潔、新しくてきれい、設備が整っている



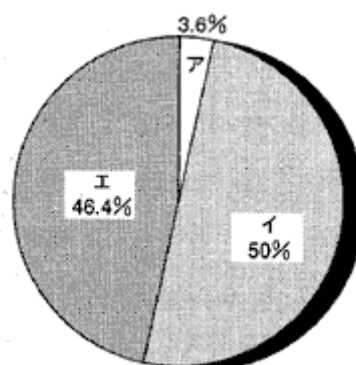
5. ご利用後のお子さんの様子とお母さんの感想をお聞かせ下さい(記述)

- ア. よかった
- イ. 安心した
- ウ. たすかった
- エ. 可哀想だった
- オ. その他



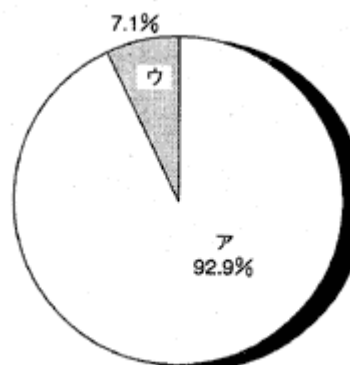
6. 今後のご利用について

- ア. 子どもが泣くので、本当に困った時しか預けない
- イ. たすかったのでまた預けたい
- ウ. 二度と預けたくない(0%)
- エ. 預ける必要がなくなった(就園、その他)



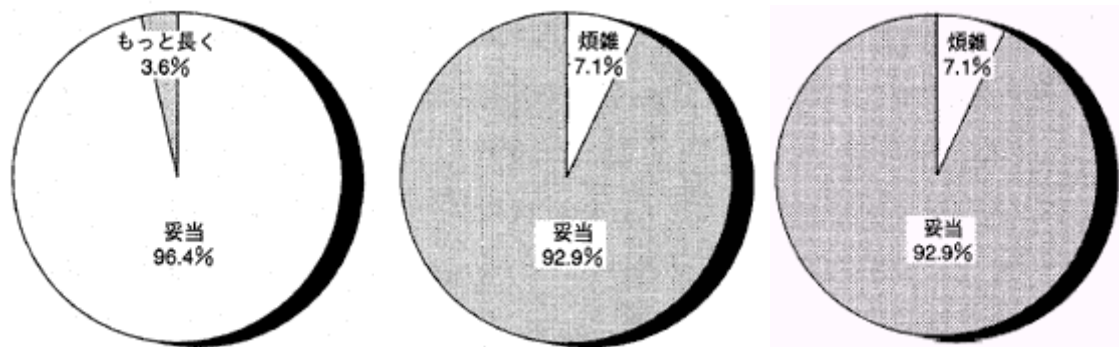
7. 一時保育の利用園

- ア. いつも第二若葉
- イ. いつも他の園だがいっぱいだったのでたまたま第二(0%)
- ウ. いろいろな園を利用している



8. 一時保育に対する要望

- | | | |
|----------|----------|------------|
| ア. 保育料 | イ. 保育時間 | ウ. 手続きについて |
| 高い 安い 妥当 | 妥当 もっと長く | 煩雑 妥当 |



その他の一時保育に対する要望は次のとおりでした。

- * 日曜日も預かって欲しい。
- * 兄弟で預ける時の保育料の割引があればよい。
- * 預けたい日に預かってほしい。今日はいっぱいなので……と断われたことがあった。
- * 1か月あたり20日位預かってほしい。1、2日位多く預かってほしい。
- * 保育の様子をもっと詳しく教えてほしい。
- * 時々しか行かないのでしかたないが、先生の名前が分からなかった。
- * 病気の時も預かってほしい。
- * 給食のレシピを教えてほしい。
- * 預ける理由を聞かれると、なにか非難されているように感じた。子どもを世話する人が家庭にいる場合、保育園は無縁でしょうか？ 私たちも疲れるので一日育児から離れたと思うこともある。

〈アンケート調査の結果から〉

今回の調査で注目したのは、預ける時の保育環境が両親が働いていて祖父母が保育していたが50%もあり、岩手という地域性からくるものであろうと思いました。しかし同居しているかという点、そうではなく殆どが母の実家であり、祖父母が旅行に行くとか、農繁期、冠婚葬祭が多く、残りの50%の、母が保育しているの理由は通院、兄弟の行事、検診が多く、次いでパート就労が主な理由でした。このことから、育児は家庭でという基本姿勢はしっかり持ちながらも、初めはどうにもならない事態の発生に伴って利用していたのだが、思いのほか、子どもも楽しめるし、保護者も「ほっ」とできる時間が持てるので継続して預ける家庭が増えています。ですから一時保育が始まった頃の「一日中泣いて過ごす子」が少なくなり、久々の登園を楽しみにしている子どもも多くなってきました。一時保育に対する要望は、記述の欄に個人的な本音が現れてきており、現時点での保育園の精一杯の対応を上回るものであり、今後の対応を基本的な部分から見直していかなければならないと感じました。

一時保育を開始して丸5年が経過し保護者の反応をアンケート調査により知ることができ、一時

保育の必要性を改めて感じながら反省すべき点も確認する事ができました。

2. 一時保育パンフレットの作成について

一時保育の広報活動の一環としてパンフレットを作成しました。一時保育を利用したいお母さんの立場になって、どんな情報がほしいかを話し合いました。また保育園の雰囲気伝えるために園舎や子ども達のスナップ写真も入れ、場所を知らせる地図も加えました。出来上がったパンフレットは福祉事務所の児童係の窓口と保育園に置き、園のホームページにも新しいパンフレットが出来たことを載せました。効果を期待したいと思います。

3. 育児講座の開催について

毎年11月に行われている保護者会は、日常的に保育参観が出来ない園の構造なので、4月からの子ども達の生活や行事の様子をビデオに収め、クラス別に保護者にお見せしながら、成長の足跡を見て頂くこと、今後の育児の方向について、園と保護者の共通認識を持つ事を目的として行っておりますが、参加率ほぼ100%に近いので、この機会に救急救命についての講習と実地訓練を企画いたしました。嘱託医の先生の講習に引き続いて、花巻消防署の救急救命士の富手賢治氏はじめ6名の補助指導員により、参加保護者と保育園の職員が全員、訓練用の人形を使った蘇生訓練を受けました。「テレビで訓練を受けているのを見たことはあるが、実際に自分が体験したのは初めて」という方が殆どで、大変好評でした。かけがえのない命をとっさの機転で救う事ができるという自信を持ちながら、私達も日常保育の中で常に意識していきたいと思います。

4. 保育園行事への参加呼びかけ

調査研究期間中の保育園行事のうち、クリスマスお遊戯会を除いた殆ど全部の行事に、一時保育の親子、近隣の卒園児や地域の親子を招いて一緒に楽しみました。

「夕涼み会」はこの地方に伝わる宵宮祭りを真似たもので、夏の夕方、沢山の夜店の間をぬって、金魚すくいをしたり、綿飴を食べたり、お面や小さな玩具類を買って楽しんでもらいました。私たち自身の幼い頃の風習をそのままそっくり園庭に再現したもので、お話コーナーや夏野菜釣りコーナー、盆踊りや花火を加えて、幼き日の楽しい思い出作りをすることを目的とした行事です。親子で浴衣を着てうちわを持っての参加で、子ども達もとても楽しみにしている行事です。

父母の会担当の夜店もあるので事前に役員会議が開かれ、地域の親子や一時保育の親子の受け入れ方について話し合いました。夜店の経費は一部父母会費から出ている部分もあるので、それに事業費を加え、一般園児と同じ対応が出来るようにしました。1か月位前から地域や一時保育の親子に呼びかけ、当日は20組程の親子が参加し、一緒に楽しみました。保護者の反応も「保育園って楽しい行事のあるところなのですね、親も楽しませてもらいました」という声も聞かれました。

「親子運動会」は事前にリズム表現の練習とか、競技の予行練習もあるので、園児以外の参加はどうか？という疑問の声もありましたが、やりたい子は参加させ、当日になって嫌がるようだ

ったら無理させず、親子競技を楽しませようということにしましたが、一時保育の非定型で来ている子たちは、適当に練習にも参加していたので殆ど園児と同じ種目に参加し、運動会を楽しむことが出来ました。もちろん賞品やご褒美メダルもみんなと同じでとても喜んでいました。

参加した保護者の中には、「今日も一時保育の料金を払うんですね」と言う方もあり、そこまで考えていなかったので「今日は運動会を楽しんで頂く日ですので、保育料は頂きません」というと、驚かれる場面もありました。

その他、「焼きいも会」は木枯らしの吹く頃の恒例の行事で、この会には当日登園している一時保育の子を交えて行う事とし、特別に呼びかけはしませんでした。たき火の中に炭をおこして、子どもたちみんなでお芋をぬれた新聞紙とアルミホイルで包み、落ち葉のたき火の中に入れて、焼き上がるまで煙遊び(段ボール箱に穴を開けて中に煙を詰め込んでポンポンたたき、煙のドーナツを出す遊び)を楽しみました。時間があっという間に過ぎて、ほかほかのお芋をみんなで頬張り、季節感を十分に味わいました。

III 考察と展望

保育所の地域子育て支援活動に関する調査研究として、一時保育の利用者に対するアンケート調査を実施し、利用する保護者の心情を理解する事が出来、今回の調査研究の大きな成果を感じております。今までは、一方的な考えで、こうした方が良いとかあつた方が良いという観点でひとつの一時保育の利用システムを作り上げてきました。大筋では、問題なく反響としても良い結果を得られましたが、少数の意見に心を止め、短期間でもかけがえのない子どもを託す保育所のあり方について見直しを図らなければならない点もあり、今後の課題であると感じました。特に要望の記述の最後にありました「預ける理由を聞かれるとなにか非難されているように感じた」というお母さんの心情を考えると、制度的には預けるための正当な理由がなければいけないのに、確たる理由が実はなかったために「私たちも疲れるので一日育児から離れたいと思うこともある」という正直な言葉になったのだと思います。今まで地方都市としてはあまりなかった部分だったのですが、こういう面のケアも必要な時代であることを痛感しました。本来の児童福祉の観点から完全な福祉サービスへ、保育園の意識の転換を図る時が小さな地方都市にもやって来ている事を受け止めながら、お母さんが一日育児から離れる事で精神的に楽になり、子どもへも優しくなれることは、間接的に子どもたちのためでもあると思います。今後も埋もれている小さな意見に心を砕きながら、子育て支援の本質を見極める必要性を感じました。

よい保育施設の選び方 10 か条が公開され、私たちも一つひとつの条項を確認しながら、保育園としても信念を持った保育のあり方を開示し、子育ての本質を見失わないようにしながら、保護者の理解を深めていきたいと思ひます。